

衆議院厚生労働委員会ニュース

平成 29.3.8 第 193 回国会第 3 号

3月8日(水)、第3回の委員会が開かれました。

1 厚生労働関係の基本施策に関する件

・塩崎厚生労働大臣、橋本厚生労働副大臣、古屋厚生労働副大臣及び政府参考人に対し質疑を行いました。

(質疑者及び主な質疑内容)

堀内照文君(共産)

- ・3月3日の本委員会での答弁を踏まえると、介護予防・生活支援サービスに係る新しい総合事業のいわゆる現行相当サービスについて、報酬単価は介護保険制度の予防給付と同じ水準と理解してよろしいか。
- ・いわゆる現行相当サービスについて、専門職の賃金が保障されるような水準の報酬単価とすべきではないか。
- ・いわゆる現行相当サービスについて、報酬単価が低いため事業者がサービスを削減し、要支援者が必要なサービスを受けられなくなっているが、自費の介護サービスや家族介護に頼れない要支援者の受け皿をどう考えているか。

河野正美君(維新)

- ・相模原市の障害者支援施設の事件について、事件の検証や精神保健福祉法の改正に向けた検討を振り返って、厚生労働大臣の問題意識及び評価を伺いたい。
- ・ギャンブル依存症対策については継続的、計画的に行う必要があると考えるが、厚生労働大臣の決意を伺いたい。
- ・電子たばこは受動喫煙防止の規制対象となるのか。

中島克仁君(民進)

- ・平成27年度の介護報酬改定から2年が経過したが、現在の介護事業所の処遇改善、人材確保の状況及び今後の介護人材対策について、厚生労働大臣の見解を伺いたい。
- ・ニッポン一億総活躍プランの介護離職ゼロ、介護人材確保における財源確保の問題及び地方への波及効果に対する厚生労働大臣の見解を伺いたい。
- ・障害者福祉政策のグランドビジョンを示して、障害者福祉に対する国民の理解を深めていくべきではないか。

井坂信彦君(民進)

- ・働き方改革実現会議の事務局案は、時間外労働月45時間を延長することができるのは年間6回が限度という現行ルールを堅持しているか。
- ・時間外労働の上限を月100時間、2か月平均80時間とすることを政府が検討中と報道されているが、その場合はいわゆる過労死認定基準を下回っていることになるのか、厚生労働大臣の見解を伺いたい。
- ・月80時間の時間外労働を合法化するような法改正は問題があるかと考えるが、厚生労働大臣の見解を伺いたい。

2 雇用保険法等の一部を改正する法律案(内閣提出第3号)

・塩崎厚生労働大臣から提案理由の説明を聴取しました。

3 厚生労働関係の基本施策に関する件(長時間労働是正問題等)

・参考人から意見を聴取し、質疑を行いました。

(参考人) 早稲田大学副総長・法学学術院教授

弁護士

厚生労働省過労死等防止対策推進協議会委員

株式会社リクルートホールディングス専門役員

リクルートワークス研究所所長

全国過労死を考える家族の会代表世話人

・塩崎厚生労働大臣、橋本厚生労働副大臣及び政府参考人に対し質疑を行いました。

島田陽一君

川人博君

大久保幸夫君

寺西笑子君

(質疑者及び主な質疑内容)

(参考人に対する質疑)

福山 守君 (自民)

- ・時間外労働の上限規制の実効性を確保するためには、労使自治が十分機能することが必要と考えるが、島田参考人の見解を伺いたい。
- ・労働時間を削減するために年次有給休暇の取得を促進する施策について、島田参考人の見解を伺いたい。
- ・時間外労働の上限規制の実効性を確保するためには、発注者や消費者の意識改革が必要だと考えるが、大久保参考人の見解を伺いたい。

大西 健介君 (民進)

- ・働き方改革では、36協定の上限を短い時間にすること、勤務間インターバル規制を導入すること、時間外労働規制の例外を拡大しないこと、の3点が含まれるべきだと考えるが、川人参考人及び寺西参考人の見解を伺いたい。
- ・勤務間インターバル規制の導入が難しいのはなぜか、川人参考人の見解を伺いたい。
- ・勤務間インターバル規制の導入を企業ごとの取組に委ねるのではなく、業界で一斉に導入する必要があると考えるが、川人参考人の見解を伺いたい。

伊佐 進一君 (公明)

- ・我が国における時間外労働規制が国際水準と比較して弱い原因について、島田参考人の見解を伺いたい。
- ・長時間労働の是正のためには、法による規制のほか、企業の自主的な取組を促す施策も必要と考えるが、労働時間の削減に向けた具体的な政策パッケージについて、大久保参考人の見解を伺いたい。
- ・IT化は労働密度を高め労働者の負担を増加させる一方、労働生産性を向上させる要因でもあるが、IT時代における働き方について、川人参考人の見解を伺いたい。

高橋 千鶴子君 (共産)

- ・高度プロフェッショナル制度の導入によって時間に縛られない自由な働き方は実現可能か否か、また、同制度の適用に年収要件を設けることは適切か否か、島田参考人及び川人参考人の見解を伺いたい。
- ・女性の活躍を進めるためには、男性の長時間労働を是正し、育児・介護に関わるようにすることが重要と考えるが、大久保参考人の見解を伺いたい。
- ・労災認定を受けるために最大の障害となる点は何か、寺西参考人の経験に照らして伺いたい。

河野 正美君 (維新)

- ・医療・福祉の現場における長時間労働問題について、各参考人の見解を伺いたい。
- ・長期有給休暇の取得を促進させるための対策について、島田参考人の見解を伺いたい。
- ・時間外労働の上限を月100時間に規制しても、それを超えて働かせる企業が現れる懸念について、寺西参考人の見解を伺いたい。

(政府に対する質疑)

柚木 道義君 (民進)

- ・宅配業者が指定時間内に荷物を配達できない場合に配送料を宅配業者の負担としているという報道の事実関係を調査し、対策を講ずるべきではないか。
- ・今月取りまとめられる働き方改革の実現を目的とする実行計画には、勤務間インターバル規制の導入や労働基準法に基づく36協定の特別条項の見直しの方向性を盛り込むべきではないか。

高橋 千鶴子君 (共産)

- ・働き方改革実現会議の事務局案において、36協定の特例として、毎月60時間もの時間外労働ができるようにしているのはおかしいのではないか。
- ・職場意識改善助成金(勤務間インターバル導入コース)の新設は、支給要件が9時間であることでインターバル規制が9時間でよいとの印象を与え、法律で規制せずに助成金による対応でよいということになるのではないか。
- ・時間外労働の上限規制には、労災認定基準と同様、休日労働も含めるべきではないか。

河野 正美君 (維新)

- ・厚生労働大臣は、働き方改革について、働き方改革担当大臣と連携して取り組むとのことだが、具体的にはどのように連携を進めていくのか。
- ・平成26年の過労死等防止対策推進法の制定後に電通新入社員の過労自殺事件が起きてしまったことを踏まえ、法制定後の政府の過労死等防止対策の取組の評価と課題について伺いたい。
- ・医療・福祉現場の過酷な労働環境を改善するため、今後どのような取組を進めていくのか伺いたい。

田中英之君 (自民)

- ・長時間労働の是正に向けた取組をしっかりと進め、過労死ゼロを実現すべきと考えるが、厚生労働省の決意を伺

いたい。

- ・長時間労働の是正により、企業には収益の減少、労働者には残業代の減少といった不安があるが、そうした不安を解消するための取組を伺いたい。
- ・時間外労働の上限規制については、段階的に施行することも検討すべきではないか。

伊 佐 進 一 君 (公明)

- ・昨年12月の本委員会で労働時間の適正な把握に係るいわゆる46通達の解釈を明確化すべきと指摘したが、その後の対応状況を伺いたい。
- ・同一労働同一賃金について、欧州は職務給、日本は職能給と事情が違うので一足飛びに行うのは難しい旨の答弁を厚生労働大臣が行っていた中で、今回ガイドライン案を策定することができた理由を伺いたい。
- ・2月24日に初めて実施されたプレミアムフライデーの効果を伺いたい。